

たんぽぽでは、幅広い対象の方の看護を実践中です！
今力を入れているのが精神科看護です。
一緒に働いてくださる方、募集中です😊😊😊

1/16
(土)

たんぽぽ訪問看護ステーション 精神科看護合同カンファレンス開催



今回は、新松戸サテライト鈴木主任より、頻繁に緊急電話へコールのある利用者さんへの対応について話し合いました。事例は、感情の抑制が効かず自身の欲求や困っていることへの訴えが多い方で、主治医と連携しながらサテライト内でも相当討議を重ね対応してきた事例です。

事業所と利用者の間では一定のルールを設けたことで、自身で折り合いをつけようとしたり、反省したりとご本人の社会性を取り戻す支援もしてこれました。しかし時に同様の状態になることと、ヘルパーへの攻撃やケアマネや特定のヘルパーへの呼び出しが常態化していることもあり、今後の支援の枠組みそのものにアプローチが必要と考えられたケースです。

皆の意見、そして「次にやってみよう」と導き出されたこと

病気を抱えながらも、いろいろな事を予測しながら生活を成り立たせていたけど、急な脳梗塞による新たな障害を負った。今までの予測との誤差が生まれて、それが不安になったんじゃないかな。自身の予測と一緒に作ることも手伝えるのでは？



現在、訪問看護としてかかわっていることは、糖尿病の週に1回の注射のみ。この方の場合、医療者としての関りというよりは、この方の生活をどう支えていくかということ、医療から福祉という視点にシフトすべきなのではないか。

辛さが頻コールにつながったのではないかな。認知行動療法やマインドフルネスの活用はどうか？辛さへのアプローチとして、精神科医へつなげることも必要なのでは？

今生活を支えてくださっているヘルパーさん方に、現在の関り方そのものがご本人の生きづらさを助長してしまっている、ルール化を適用させるなど、かかわり方のポイントを伝えていくことが、訪問看護師に求められることなのではないか。

「次にやってみます！！」

- ご本人は、精神科受診に後ろむきですが、サポート体制として精神科医との連携は重要。「困りごとが重なるときは、精神科受診をする」と予めご本人と決めておく。
- 訪問時には、話す時間と内容や目的をルール化していく。



訪問時に話をしていくうえでは、時間と何を目的に話をするのかを、本人と明確にルール化したうえで行っていくことが必要なのでは？内容によっては、依存をうんでしまいそう。